第 50 回　2013 年真夏のシンガポールにて

2013 年 7 月末から 8 月にかけて長男一家とともに 3 泊 4 日のシンガポール旅行を楽しんだ。最終日は日中観光のあと夜の帰国便に乗り、翌日早朝羽田着の際はかなり疲れたが、とにかくその日の午前中に仙台の自宅にたどり着くことができた。同行した連れ合いと若い連中は疲れも見せず、羽田着の後それぞれ東京での仕事や予め計画していたスケジュールを実行したようである。連合いは、帰仙した夕方自分の出身大学の同窓会にでかけていった。

シンガポールは東南アジアのほぼ中心にあって、北のマレー半島（マレーシア）とはジョホールによって隔てられており、北緯 1 度 17 分とほとんど赤道直下にあるといってもよい位置にある。シンガポールは全体で 63 の島からなり、最も大きな島がシンガポール島で、その東端にシンガポール・チャンギ国際空港がある。

日本との時差は 1 時間だが、国際空港に着いたのは現地時間で 17 時であった。当時日本出発時が高温で蒸し暑かったためか、到着後現地でもそれほど暑さはつらくなかった。旅行書によると現地の 7 月・8 月の最高気温は 30.9℃、最低気温は 24.5℃程度で日本とそれほど変わりがない。国土面積が東京都と同じ位で、人口密度がモナコに次いで世界第 2 位という自然豊かな赤道直下に近い大都会で数日間の休日を楽しんだ。

その数日間を思い出すままに記してみる。73 階建てのホテルに入り、一休みしてからホテル近くの徒歩 5 分程度の所にある中華料理店で食事をしたが、後でその店は旅行案内書のその項目の最初に記載してある広東料理店と知った。翌日午前はリゾートワールドセントーサというところにある水族館に行き、午後はシンガポール動物園で過ごし、夜を待ってナイトサファリにでかけた。移動はすべて地下鉄かバスを利用し、その日はこの数年経験したことがないような徒歩数で、3 万歩以上は歩いたと思う。シンガポール動物園は 28 万㎡という広大な面積があり、そこには約 300 種、3000 頭の動物が飼われているということであった。夜行性動物が観察できるという、ひき続く夜のナイトサファリではトラムという 3 台つなぎの屋根だけの乗り物に乗り、昼とはまた別なコースで、高温多湿の熱帯の夜を連想させる森のなかを通った。動物園を廻ってみて、広いとはいえ限りがある敷地内で、猛獣たちがそれぞれ彼らにとっては狭すぎるテリトリーをもちながら、隣接するテリトリーの他の動物たちとも血を流すことなく共存しているのが不思議に感じられた。その夜もバスと地下鉄を利用して帰館した。

三日目は朝から時々小雨模様で晴れ間もあるが、相変わらず蒸し暑い日であった。モスクのあるアラブ街をまわったあと、「マレー博物館」でマレー半島の歴史をみて、さらにリトルイ

ンディアというインド街まで歩き、そこでインド料理の昼食をとった。モスクでは職員と思われるアラブ系の女性による丁寧な説明を受けた。ヒンズー教寺院は残念ながら工事中であった。ホテル近くの地下鉄駅からマリナベイにある旅行案内書にも載っているマーライオンの石像を見た後帰室し、一休みしたのちシンガポール最後の正式な夕食をフランス料理店でとることにした。

最終日の朝は前夜のワインの量が多かったためか寝覚めがよくなかった。シンガポールのフランスワインは同じ銘柄を日本と比較するとかなり高値であった。最終日は夜の便まで時間があるとはいえ、遠出は控えることにした。英国正教会のセントアンドリュース教会とクロードシェファードローマンカトリック教会を訪問した後、シンガポール歴史博物館に行き、ポータブル説明用レコーダーを借りてそれぞれのセクション毎にシンガポールの歴史を聴いた。夕方 5 時にホテルに戻り、7 人乗りのタクシーで早めにシンガポール・チャンギ国際空港についた。

シンガポールで感じたことは、滞在した場所が市街地中心部ということもあると思われるが、ひとつに若者が多いのが目につき、高齢者はあまり目立たなかったのである。街中の治安も良い印象であった。シンガポールは少子化が進み、労働力維持のため政府は移民を推進しているといわれている。住民は中国系が四分の三を占め、残りがマレー系、インド系、その他の系という多民族国家としてそれぞれが共生しつつ異なるコミュニティーを形成しているのである。さらに同地で感じたことは赤道近くにもかかわらず穏やかな気候のもとに繁栄が約束されているような地理的優位性である。マレー半島の北端にマレーシアとジョホール海峡を隔てて、マラッカ海峡の入口に位置するシンガポールは海上交通の最重要地でもある。

1936 年（昭和 11 年）生まれの筆者が小学校（当時国民学校）入学前の時に太平洋戦争（大東亜戦争）が勃発し、3 年生の時に終戦（敗戦）を迎えた。当時のシンガポールのことは子供の心の中に強烈に残されていた。1941 年（昭和 16 年）12 月 8 日にはじまり 1945 年（昭和 20 年）8 月 15 日に終戦の日を迎えた太平洋戦争の緒戦で、12 月 10 日マレー沖で英国東洋艦隊の最新鋭戦艦プリンスオブウエールズ（36000 トン）と巡洋戦艦レパルス（38200 トン）が史上はじめて航空機の攻撃によって撃沈されたことが報道されたことを 70 年後の現在でも明確に記憶している。

15 世紀ころから 17 世紀半ばまで続いた大航海時代ののち、シンガポールを含むマレーシアはオランダやイギリスの植民地として重要な地域であったが、太平洋戦争後マレーシアが独立し、さらに 1965 年シンガポールはマレーシアから独立したのである。日本でも知名度

が高いシンガポール初代首相リー・クアンユー氏（89 歳）は現在の経済的繁栄を実現し、首相引退後のいまも健在である。

2013 年夏のシンガポール旅行では滞在中は歩くか、バスか、地下鉄などで移動し、身体的には疲れたが、いろいろな意味で有意義であった。

治安が良く、活気があり、赤道近くとはいえ、真夏でも過ごしやすいという経験をした彼の地はまた旅してみたいと思う。